

1. 事業の概要

低炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの導入を拡大していく必要があるが、再生可能エネルギーによる二酸化炭素の削減については、例えばバイオ燃料は、原料の生産・燃料の製造から、輸送・貯蔵を経て、利用に至るまで、各段階において実際には二酸化炭素を排出しており、ライフサイクル全体を考慮した実際の削減量を評価する必要がある。

そこで、バイオ燃料等の各再生可能エネルギー技術について、原料、設置、使用等の各工程の二酸化炭素排出削減量を検証するとともに、将来にわたる削減可能性について推計し、中長期的に国内の排出量を効果的に削減する。

2. 事業計画

各再生可能エネルギーについて、原料、設置、使用等の各工程における二酸化炭素排出削減量を検証するとともに、将来にわたる削減可能性について推計する。

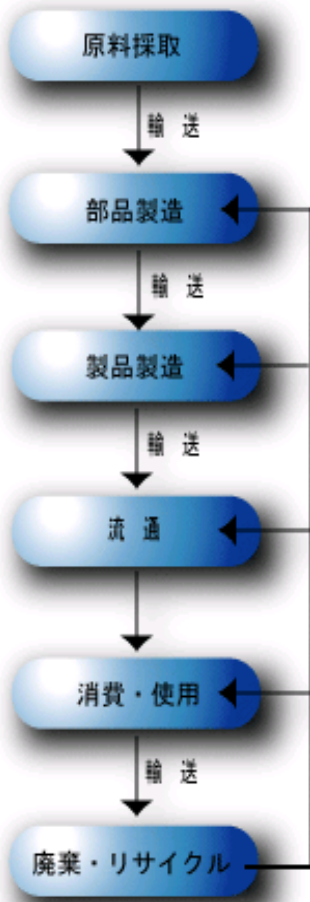
- ・平成 22 年度～ バイオ燃料、小水力発電、風力発電
- ・平成 23 年度～ 太陽熱利用、地中熱利用、バイオガス
- ・平成 24 年度～ 太陽光発電、その他及び 3 年間のとりまとめ

3. 施策の効果

ライフサイクル全体で見て二酸化炭素削減に効果的な再生可能エネルギー技術を導出し、中長期的な国内排出量の効果的な削減に活用する。

再生可能エネルギー二酸化炭素削減効果検証費

再生可能エネルギーに関して、ライフサイクルの各段階におけるCO2排出量を積算し、再生可能エネルギーの種類毎のCO2削減効果を検証する。



LCA(ライフサイクルアセスメント): 製品等の原料採取から製造、使用から廃棄に至るまで、ライフサイクル全ての過程を通して、環境に与える様々な負荷の大きさを定量化し、評価する手法。

